



2024年5月21日

2024年3月期

決算説明資料

東京証券取引所スタンダード市場
証券コード 5162

目次

2024年3月期決算 実績

連結決算 実績	4
連結決算 実績 - セグメント別	5
連結決算 実績 - 地域別	6
中期事業分野	7
連結決算 実績 - 中期事業分野別	8
連結決算 実績 - 主要製品	9 ~ 12
連結子会社 損益実績	13
連結設備投資 実績	14
連結貸借対照表 状況	15
連結キャッシュフロー 実績	16
各事業の取り組み	17 ~ 21

2025年3月期 予測

連結決算 通期予測	23
連結決算 通期予測 - セグメント別	24
連結決算 通期予測 - 中期事業分野別	25
連結決算 通期予測 - 主要製品別	26
連結設備投資 計画	27
配当計画	28

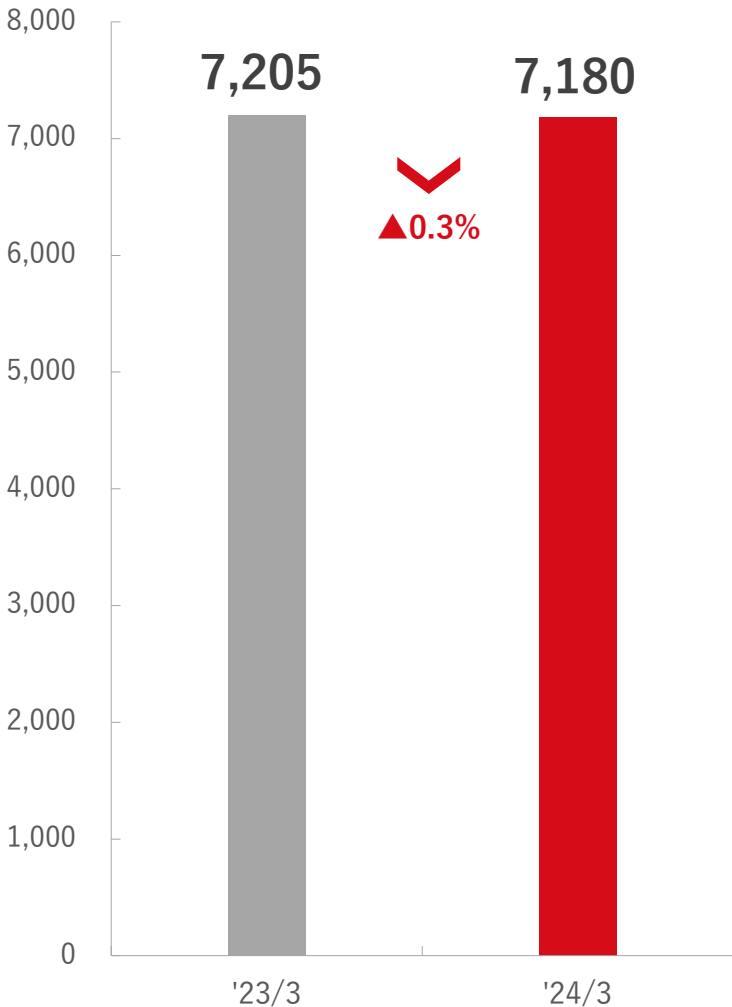
資本コストと株価を意識した経営の実現に向けた対策

現状把握	30
資本収益性の向上	31
PBR1倍割れ対策	32
株価向上対策	33

2024年3月期決算
実績

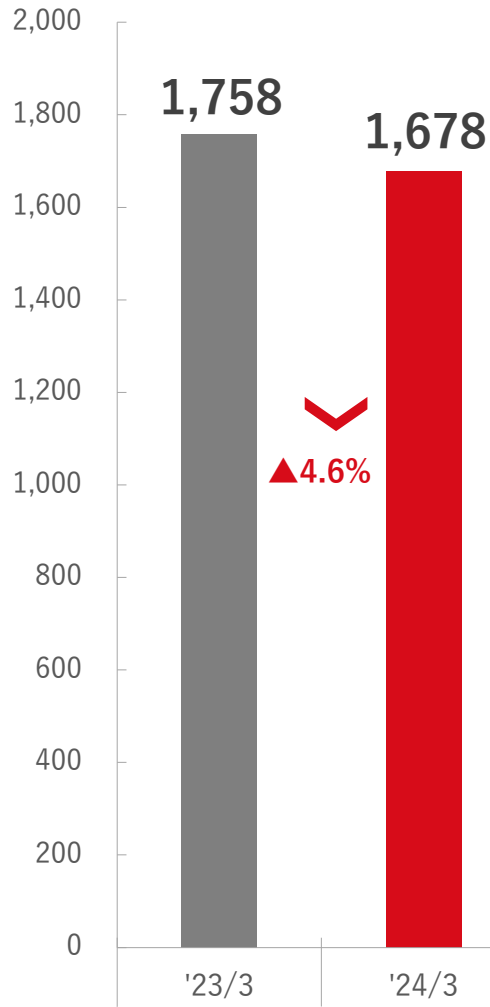
2024年3月期連結決算 実績

単位：百万円



売上高

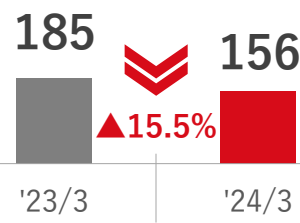
単位：百万円



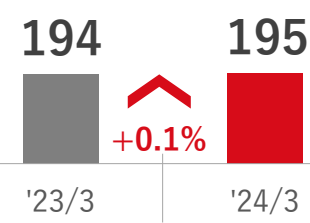
売上総利益

- 昨年まで続いた半導体不足による在庫調整の影響は年明けから解消されたため、売上高は微減収となった。
- 売上高の減少により各利益指標も減少した。

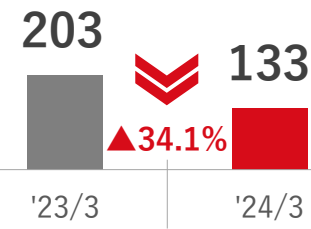
- 風車事業の一つとして取り組んでいる風車のブレードを保護するカバーの開発において、2022年に実機に取り付けたカバーの劣化に対して必要となった再施工に関する費用を偶発損失引当金繰入額として計上。
- 光学事業のレンズ製品について、白河工場だけで生産する設備による将来キャッシュフローの回収可能性を考慮した減損損失を計上。レンズ製品は白河第二工場でも生産する計画。



営業利益



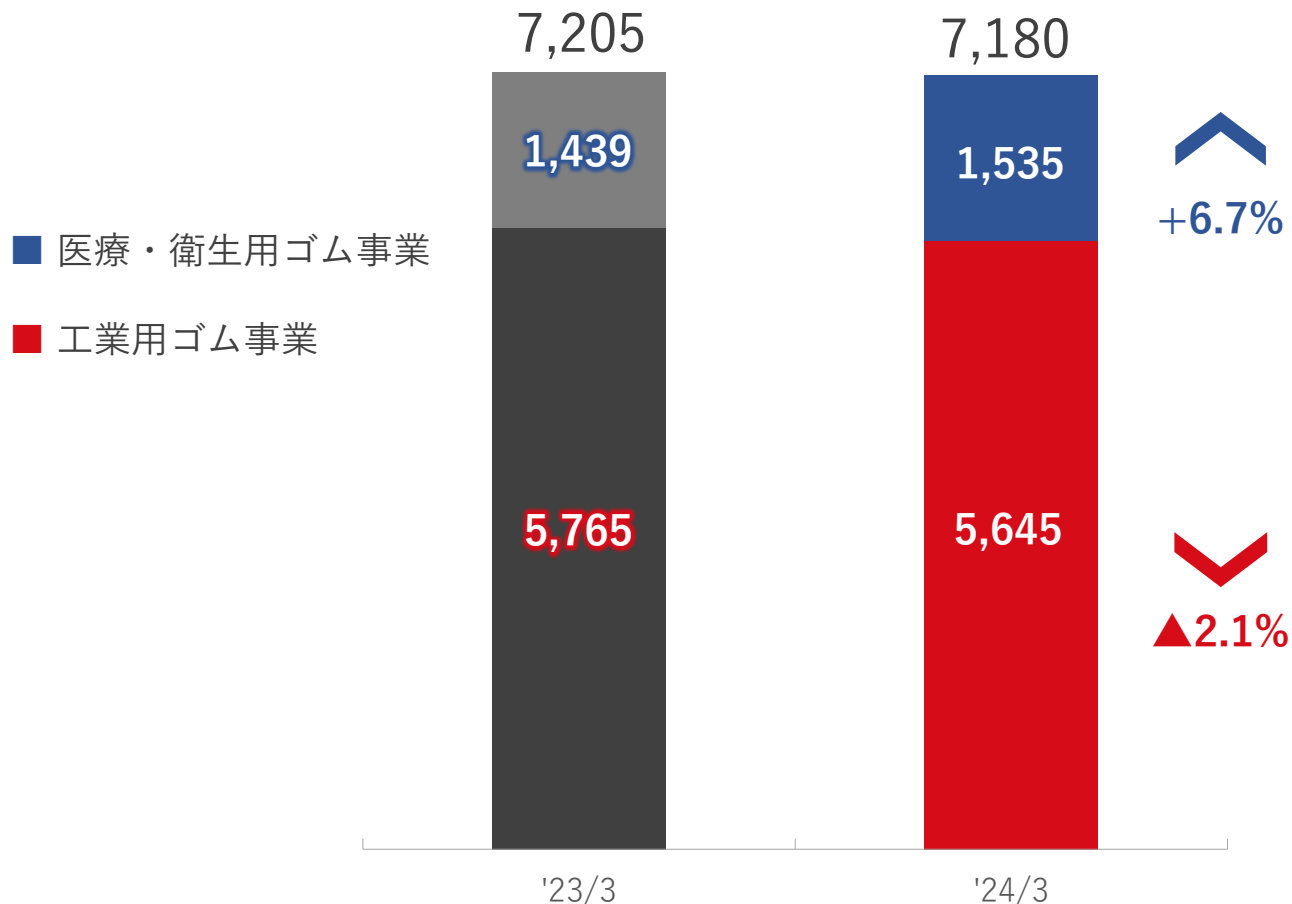
経常利益



当期純利益

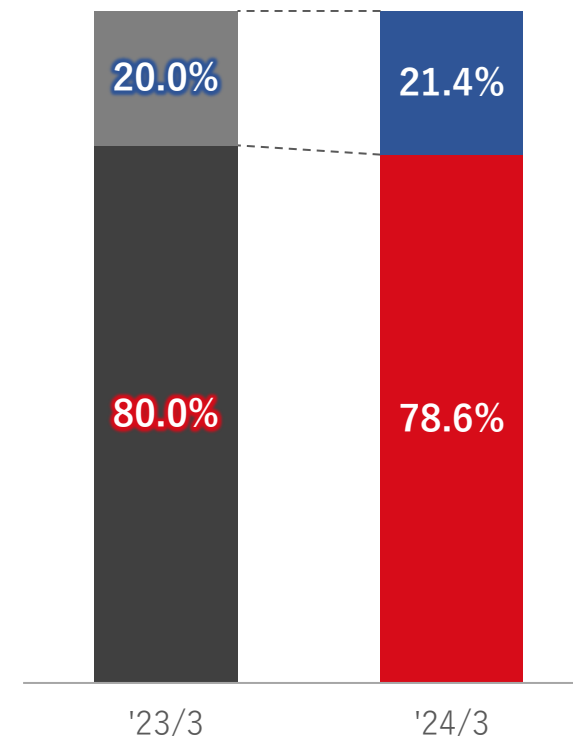
売上高

単位：百万円



構成比

- 医療・衛生用ゴム事業
- 工業用ゴム事業

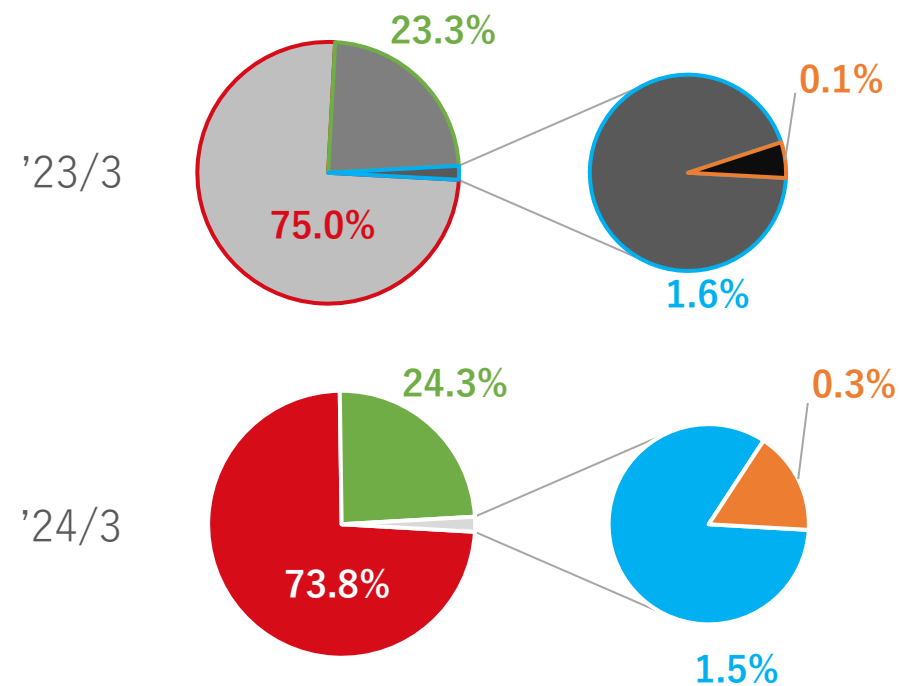
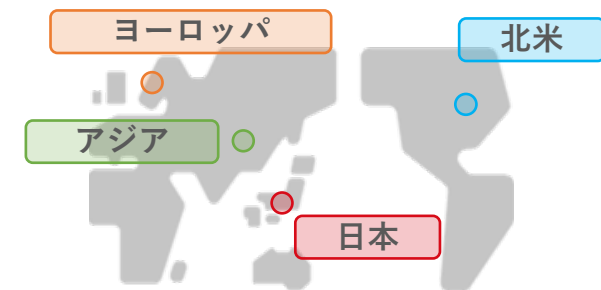
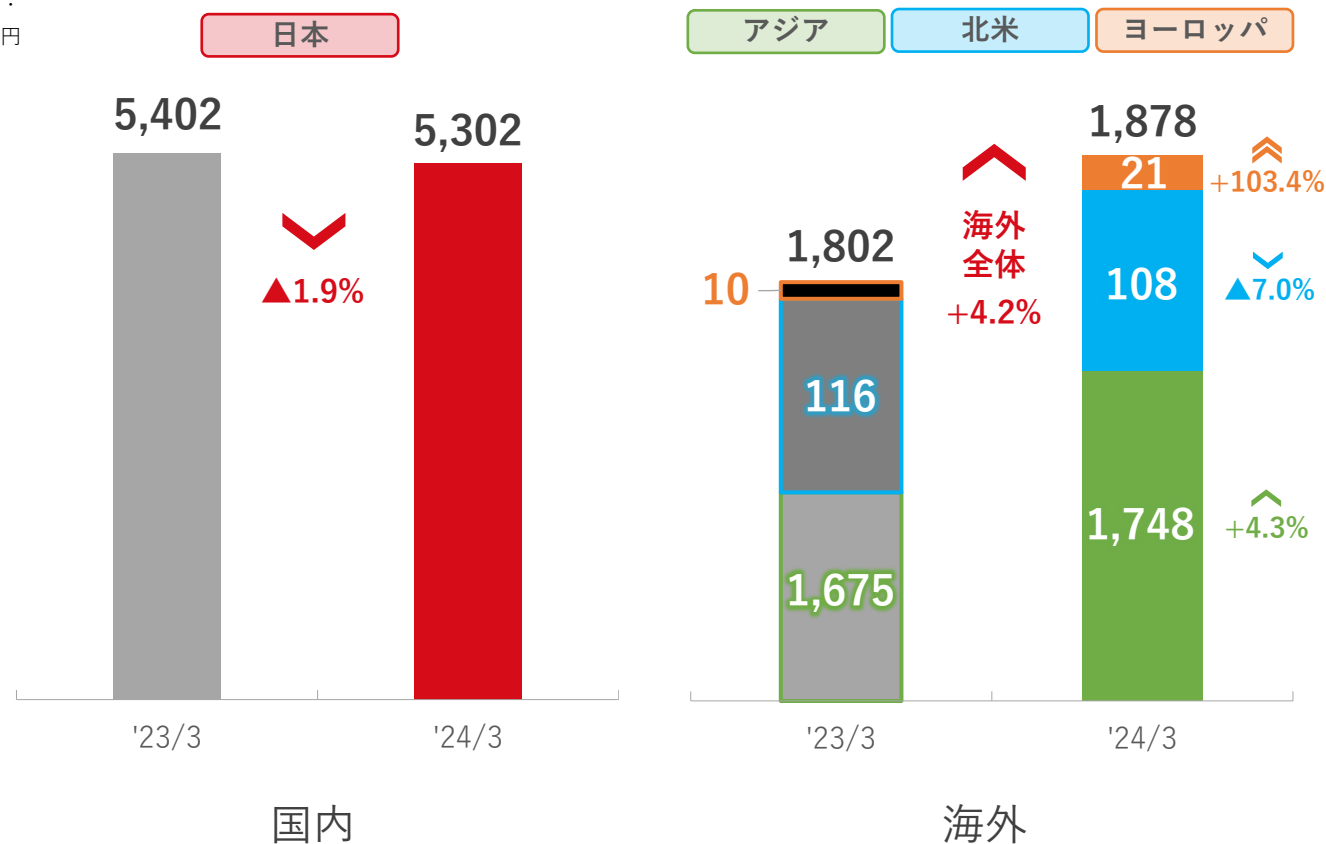


工業用ゴム事業は自動車向けで半導体不足の影響による在庫調整で受注が減少した。
 医療・衛生用ゴム事業はプレフィルドシリンジ用ガスケットなど診断・治療向けの製品の受注は引き続き増加した。

売上高

構成比

単位：
百万円



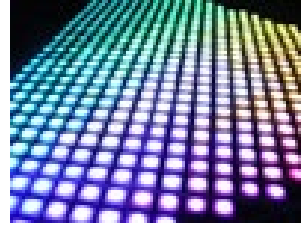
アジア向けの売上高がコロナ禍から回復し堅調に推移。

中期事業分野

光学事業

主要
製品

ASA COLOR LED[®]
ASA COLOR LENS[®]
白色シリコンインキ



「感性、共感」をキーワードに、色と光を制御する技術と感性技術を磨き、自動車の内装照明市場から外装照明、またアンビエント照明に向けた技術開発と提案を進める。

医療・ライフサイエンス事業

主要
製品

プレフィルドシリンジ用ガスケット
採血用・薬液混注用ゴム栓
ARチェックバルブ
マイクロ流体デバイス



診断・治療分野、理化学機器分野、介護・予防分野に向けて制御技術と感性技術を磨き、世界の医療現場と患者のQOL (Quality of Life) 向上に貢献する。

機能事業

主要
製品

自動車スイッチ用ゴム
卓球ラケット用ラバー
F-TEM
(フレキシブルサーモエレクトリックモジュール)



ビークル分野、エネルギー分野、環境発電分野、スポーツ分野において制御技術と触覚・熱・振動・光関連の技術、感性技術を磨き、将来のライフスタイルの実現への貢献に向けて、弾性無限で人に優しい感性価値を提供する。

通信事業

主要
製品

RFIDタグ用ゴム製品
やわらか保護カバー



自動認識分野、通信機器分野、センシング分野において、伝える・伝わるセンシング技術、触覚・熱・振動・光関連の技術、感性技術を磨き、ゴムだからこそ実現できる価値を提供する。

2024年3月期連結決算 実績 - 中期事業分野別

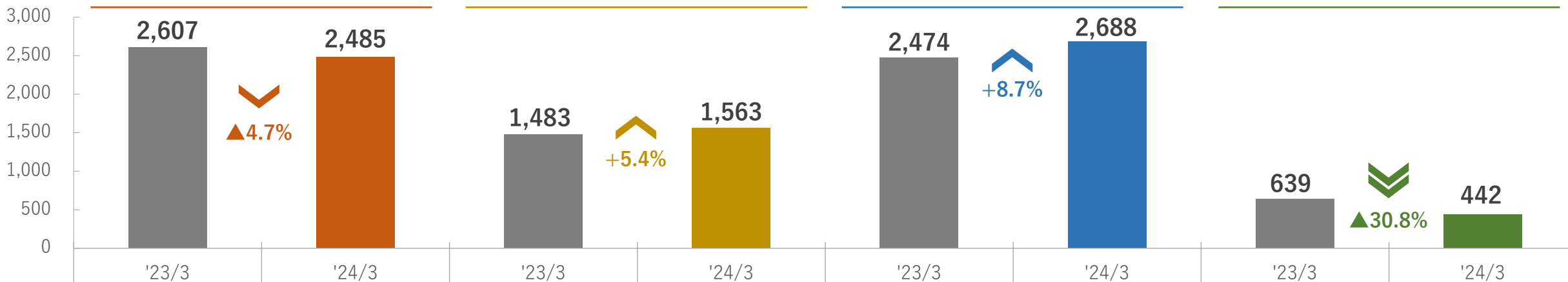
単位：百万円

光学事業

医療・ライフサイエンス事業

機能事業

通信事業



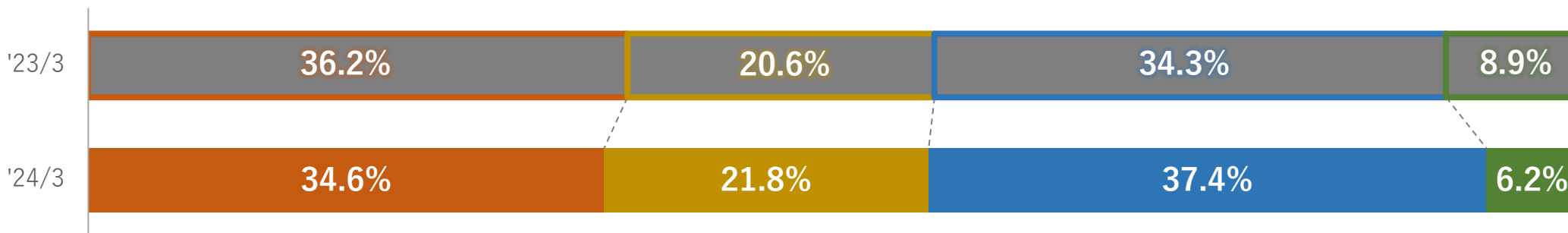
期前半の半導体不足による顧客の在庫調整が自動車内装照明用のASA COLOR LEDの受注に影響したことから減収。

プレフィルドシリンジ用ガスケット、採血用・薬液混注用ゴム栓、ARチェックバルブなど診断・解析向けの製品の受注が増加。

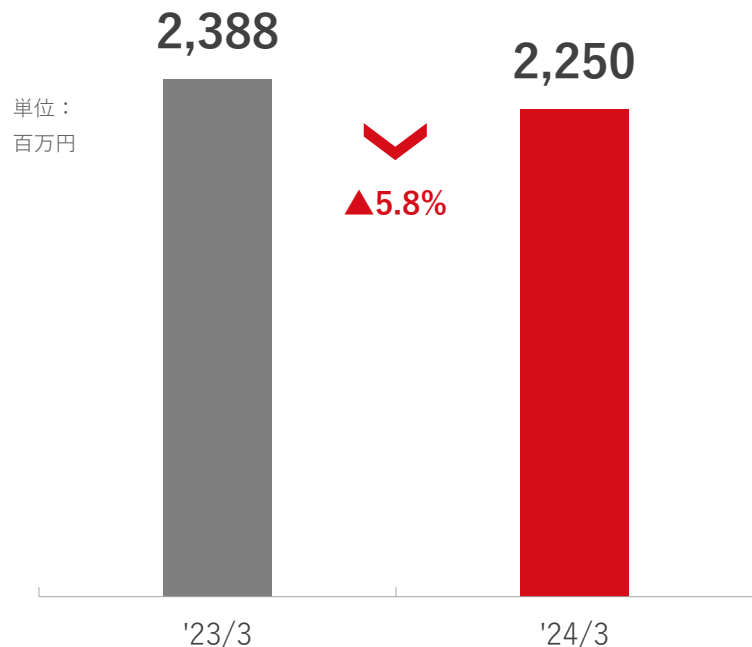
卓球ラケット用ラバーの増加が貢献。自動車のスイッチ向け製品の受注回復が遅れたが、昨年末から増加傾向。

RFIDタグ用ゴム製品の受注は回復傾向ではあるものの前年同期比では減少。コネクター製品の受注も在庫調整のため減少。

構成比

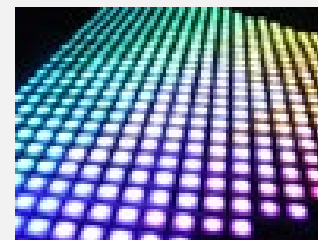


連結売上高推移



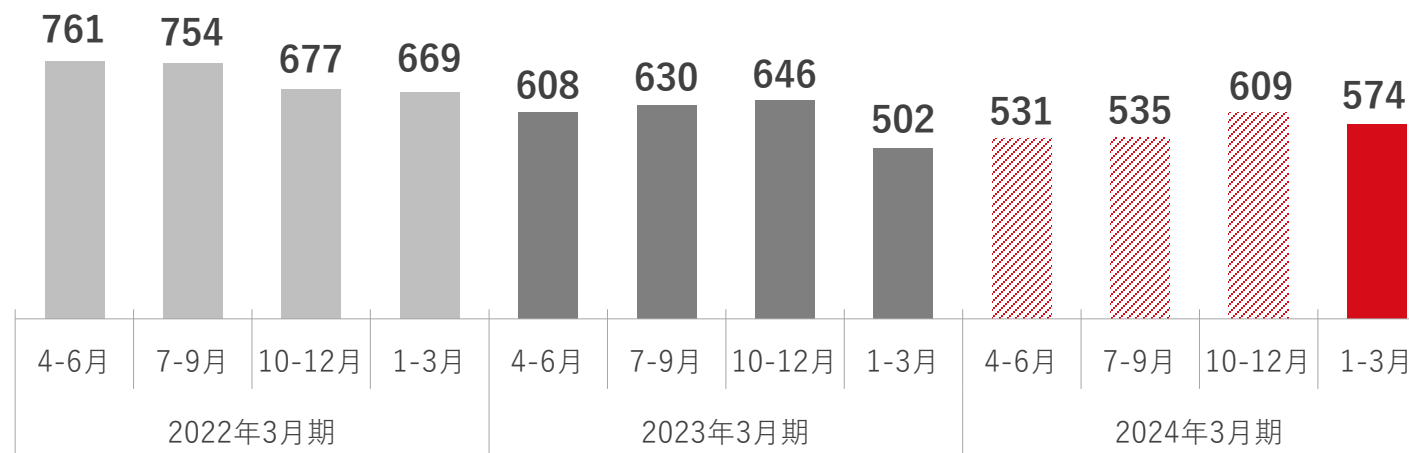
ASA COLOR LED®

蛍光体を配合したシリコンゴム製のキャップを青色LEDに被せることで10,000色以上の光のバリエーションを提供できる。自動車内装照明や特殊照明向け。



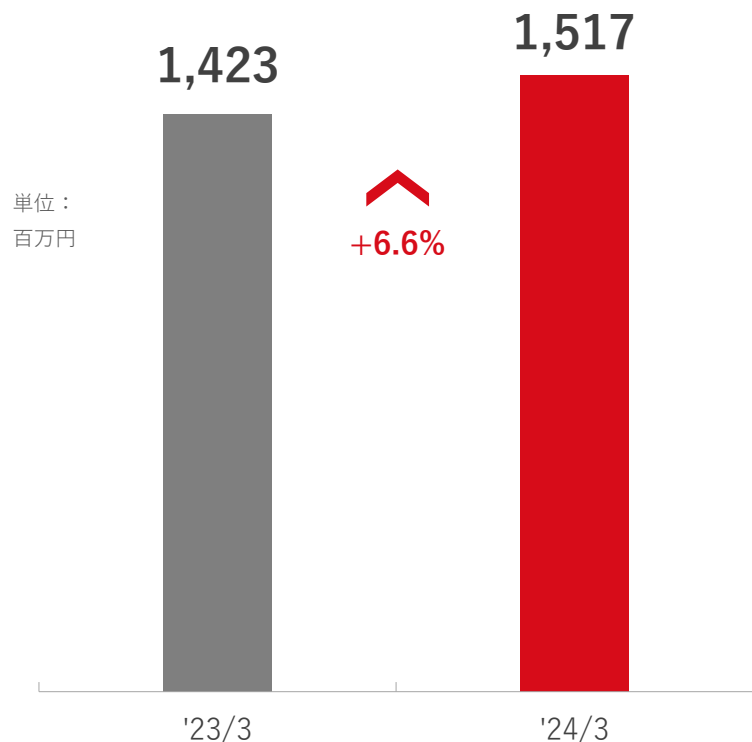
四半期会計期間の売上高推移

単位：百万円



半導体不足による自動車のサプライチェーンでの在庫調整が終息し、受注が回復基調。

連結売上高推移

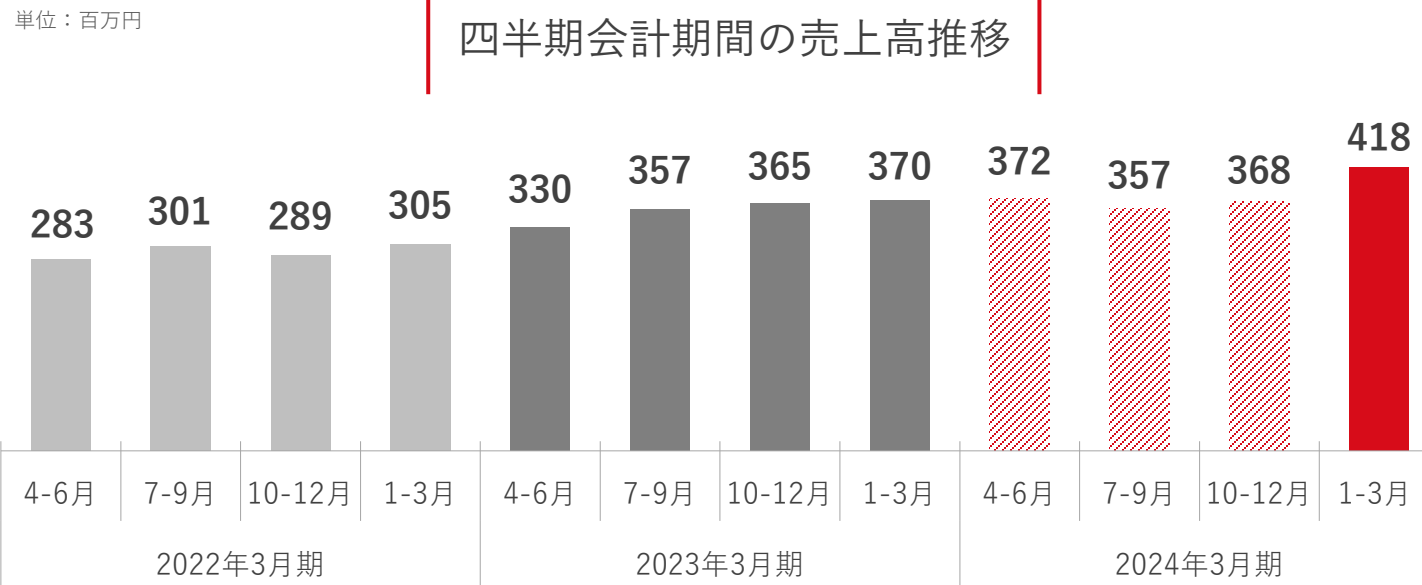


医療用ゴム製品

プレフィルドシリンジ（薬液充填済み注射器）用ガスケット、採血用・薬液混注用ゴム栓、ARチェックバルブ（逆止弁）など、使い捨てのディスポーザブル用ゴム製品。

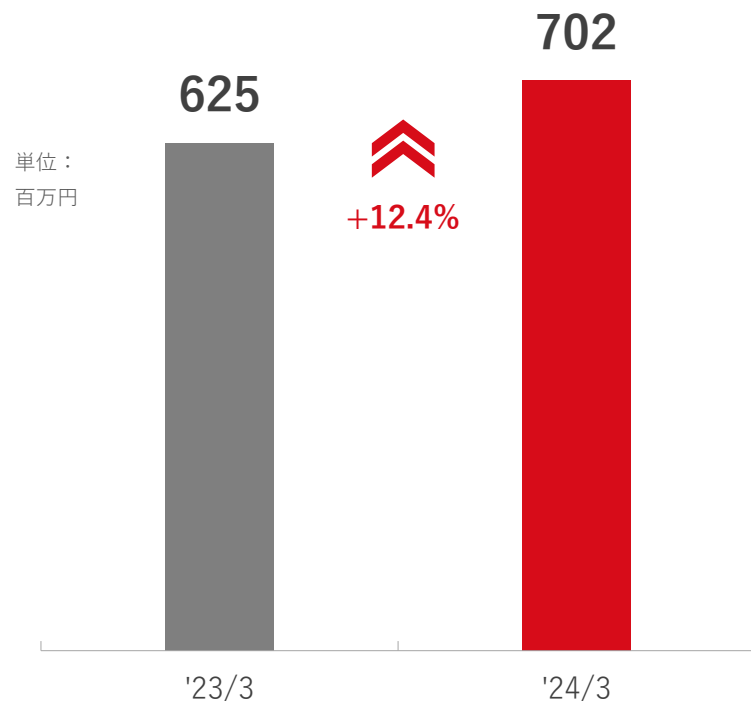


四半期会計期間の売上高推移



プレフィルドシリンジ用ガスケット、採血用・薬液混注用ゴム栓、ARチェックバルブなど診断・解析向けの製品の受注が好調に推移し、過去最高の売上高を更新。

連結売上高推移



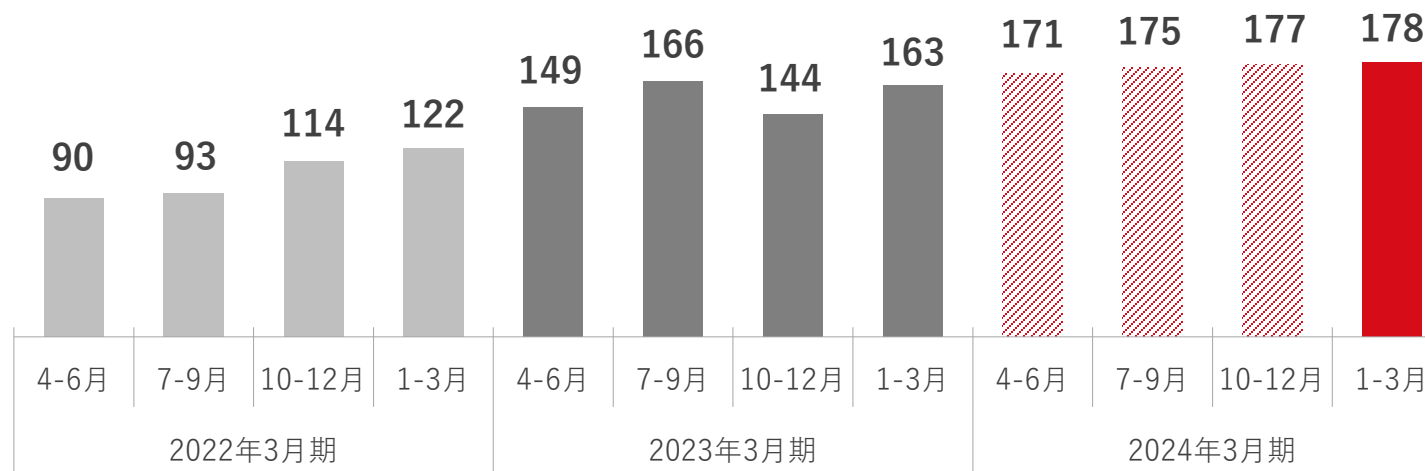
卓球ラケット用ラバー

反発弾性、高摩擦抵抗などを追及した高品質の卓球ラケット用ラバー。



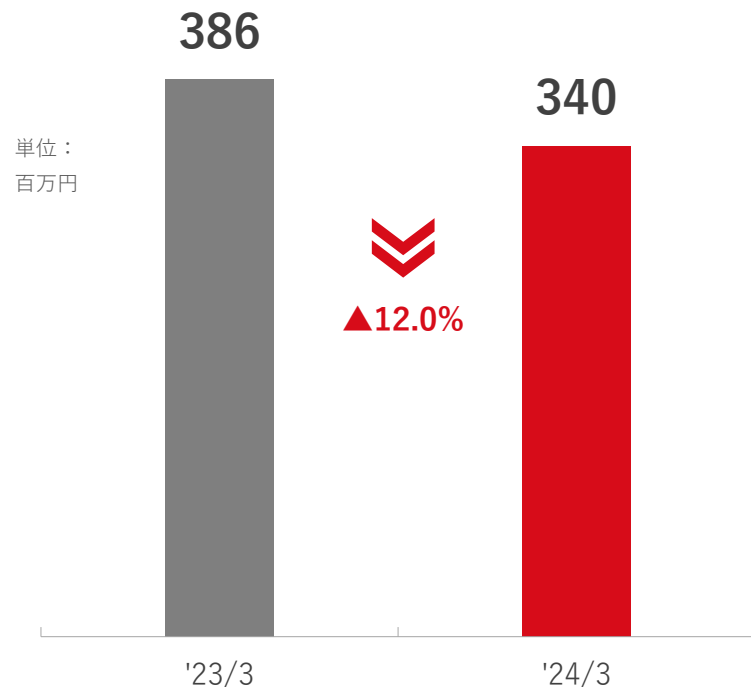
四半期会計期間の売上高推移

単位：百万円



顧客の市場シェア上昇にあわせて既存製品と前期からスタートしている新製品とも受注は好調で、過去最高の売上高を更新。

連結売上高推移



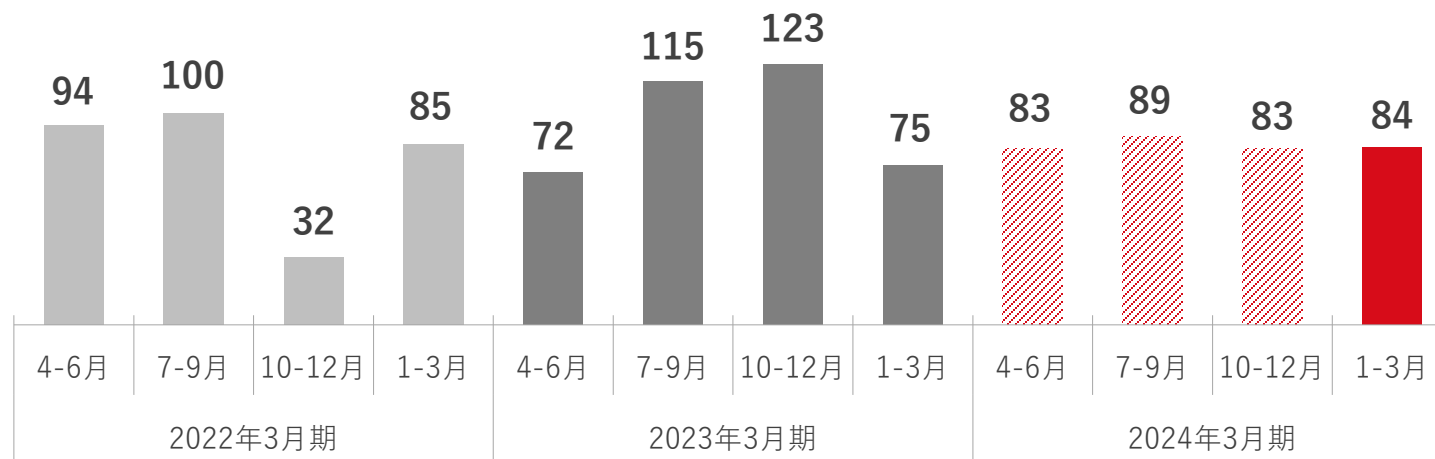
RFIDタグ用ゴム製品

溶剤を使わずに接着させる“分子接着・接合技術”を応用し、ICチップやアンテナ部をゴム素材で覆い、折り曲げに強く、耐水性、耐熱性に優れた、柔らかい小型のICタグ。



単位：百万円

四半期会計期間の売上高推移



北米市場での受注が回復傾向ではあるものの、新型コロナ以前の水準には回復していない。

単位：千円	株式会社 朝日FR研究所	Asahi Crosslink Corporation	朝日橡膠（香港） 有限公司	東莞朝日精密橡膠製品 有限公司	朝日科技（上海） 有限公司
設立	1987年4月	1999年6月	2005年11月	2010年7月	2012年1月
資本金	10,000,000円	200,000米ドル	19,700,000香港ドル	17,551,530人民元	50,000,000円
業務内容	ゴム・プラスチックに 関する研究	工業用ゴム製品の 販売	工業用ゴム製品の 販売	工業用ゴム製品の 製造・販売	工業用ゴム製品の 開発・設計・販売
研究収入 / 売上高	111,400 ▲35.8% 前期増減率	113,705 ▲8.3% 前期増減率	315,129 ▲11.5% 前期増減率	995,304 2.2% 前期増減率	236,624 ▲24.7% 前期増減率
経常損益	15,247 — 前期増減率	2,943 — 前期増減率	▲2,558 — 前期増減率	53,233 ▲39.0% 前期増減率	7,472 ▲80.4% 前期増減率
当期 純損益	10,018 — 前期増減率	2,943 — 前期増減率	▲2,558 — 前期増減率	45,394 ▲40.3% 前期増減率	7,095 ▲80.7% 前期増減率
円換算レート	—	1米ドル = 141.20円	1香港ドル = 18.03円	1人民元 = 19.87円	1人民元 = 19.87円

2024年3月期連結設備投資 実績



事業分野別

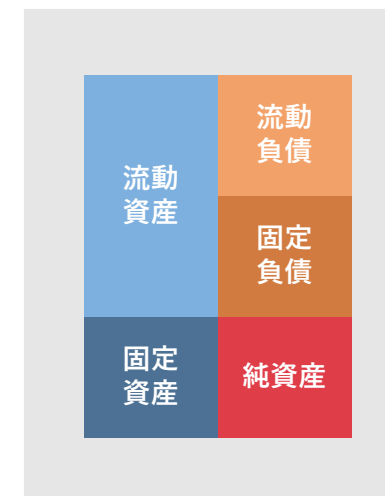
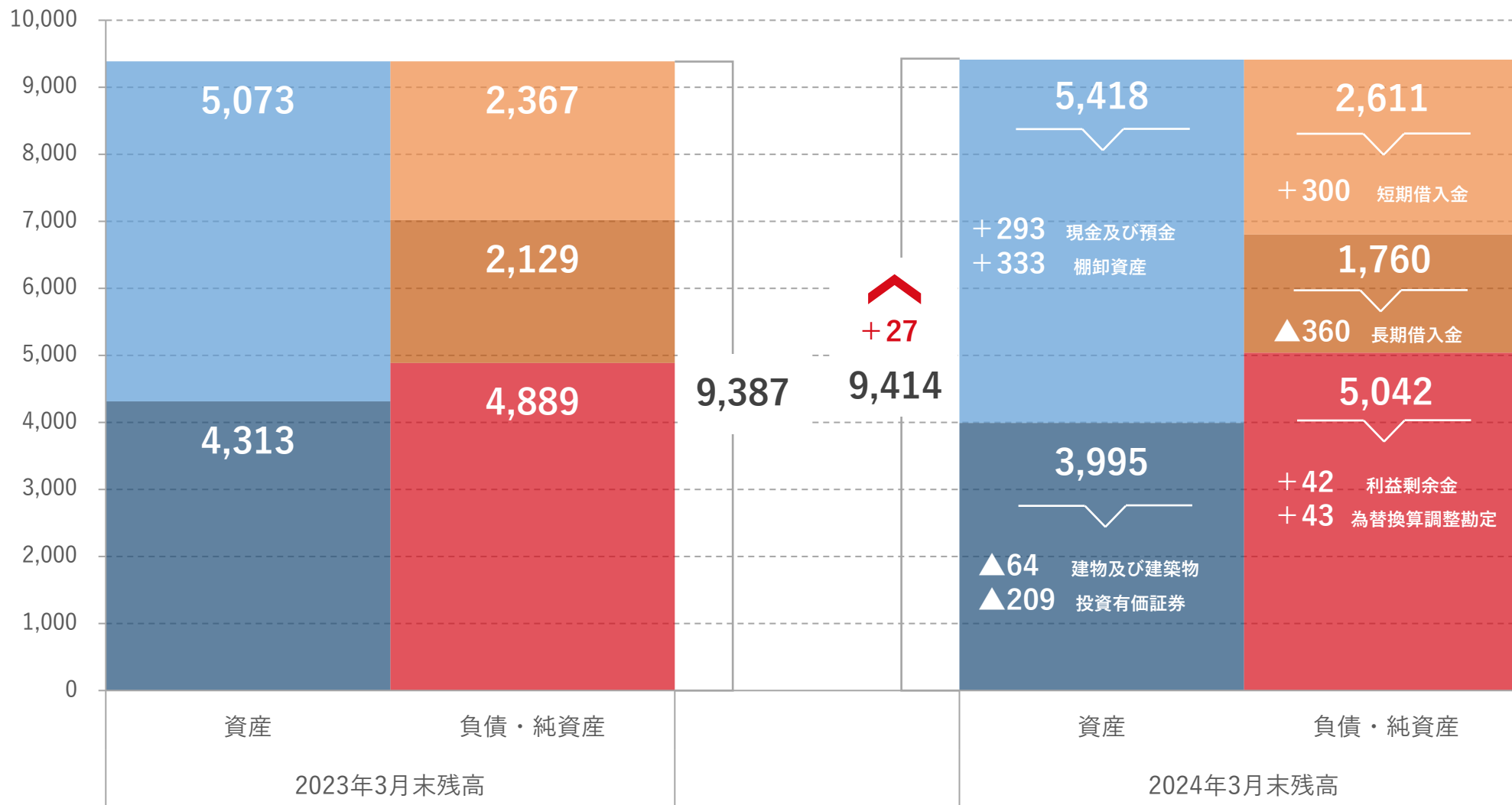
法人別

光学事業	108百万円	ASA COLOR LED設備他
医療・ライフサイエンス事業	128百万円	回路製品の生産設備他
機能事業	171百万円	自動車向けゴム製品 生産設備他
通信事業	6百万円	タグ関係生産設備
事業共通	28百万円	
 朝日ラバー	420百万円	全事業
朝日FR研究所	7百万円	基礎研究など
東莞朝日精密橡膠制品	14百万円	機能事業など

医療・ライフサイエンス事業はARチェックバルブ（逆止弁）など回路製品の生産投資を実施。
機能事業は自動車向けゴム製品の生産効率化の投資を実施。

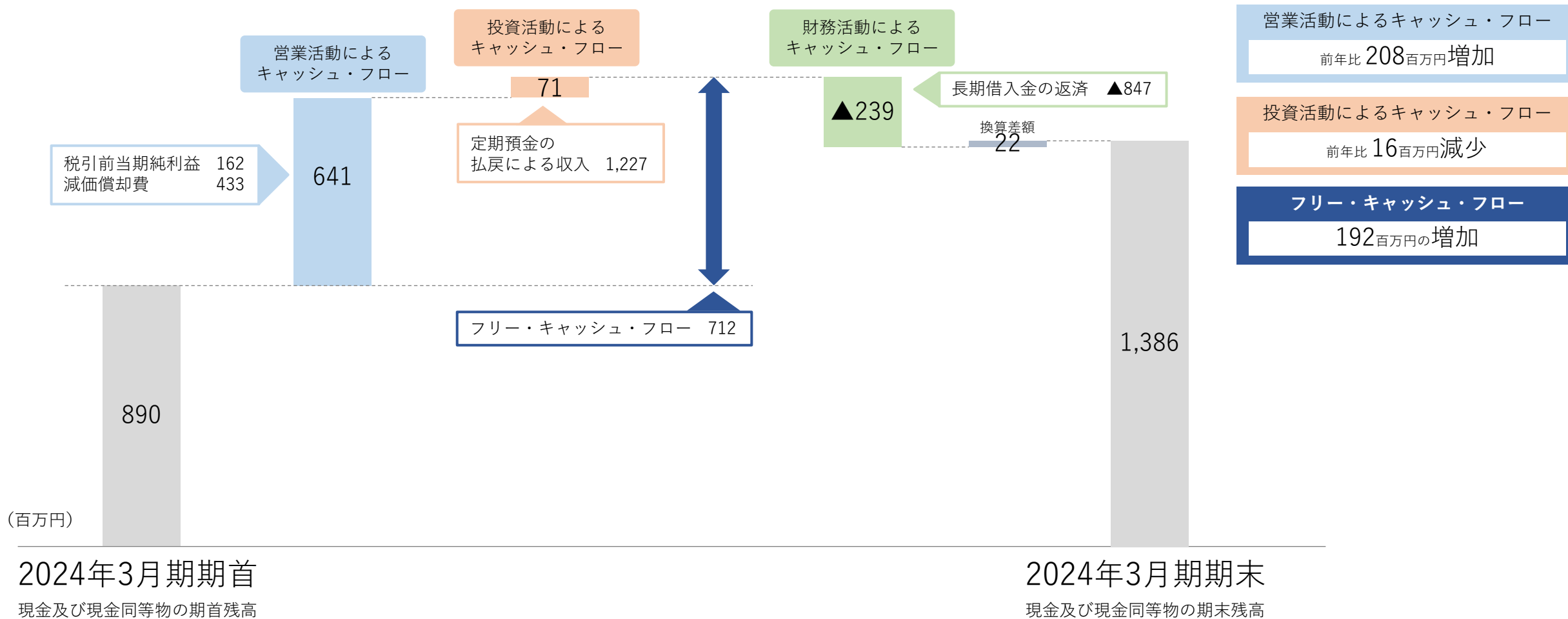
連結貸借対照表 状況

単位：百万円



資金需要のタイミングを考慮して借入期間の最適化を図っている。

連結キャッシュフロー 実績



投資活動によるキャッシュフローは投資有価証券の売却による収入を含む。

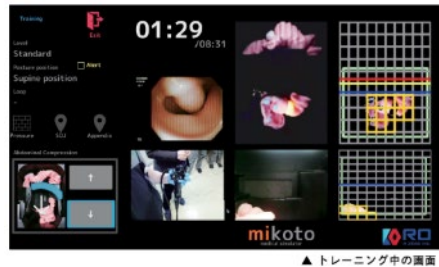
財務活動によるキャッシュフローは資金需要のタイミングを考慮して長短借入金の返済と収入を実施。

医療・ライフサイエンス事業の取り組み - 手技シミュレータ関係

大腸内視鏡シミュレータ mikoto

大腸の内視鏡手術をトレーニングするためのシミュレータです。内視鏡のリアルな挿入感と術中の様子を採点できる機能によって、手技レベル向上を図ることができます。

鳥取大学発ベンチャー R0社と共同開発



▲ トレーニング中の画面



穿刺トレーニング レベラップ

採血など穿刺を練習するためのトレーニングモデルです。実際の注射器を使用し、穿刺～採血までの流れを一通りトレーニングすることができます。

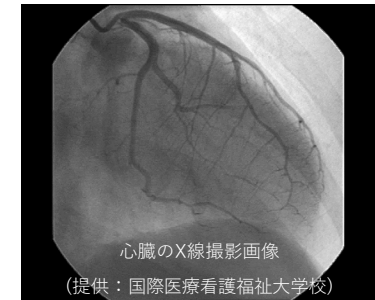
近畿大学、タナック社と共同開発



心臓の血管位置を学ぶ CAトレーナー

X線画像では分かりにくい心臓の周りの血管を学ぶための学習用ツールです。このモデルと実際のX線撮影画像を照らし合わせることで、どの血管がどこにあるのかを正しく理解することができます。

国際医療看護福祉大学校と共同開発



心臓のX線撮影画像
(提供：国際医療看護福祉大学校)





朝日ラバーが 拡売を目指すエリア

拡売エリアを広げる活動

手技
シミュレータ

既存顧客との取り組み

引き続き既存顧客との取り組みを継続し、付加価値のある製品を提案する活動を進める。

新規顧客の開拓

既存製品・新製品のさらなる拡売のため、新規顧客の開拓にも注力する。

新製品の拡売

朝日ラバーだからできた付加価値のある製品を、国内外含めて広く拡売する。

手技シミュレータ分野から 医療現場に関わる

医療・ライフサイエンス事業の成長に向けて、医療現場に関わる方々との接点を増やし、市場の課題とニーズに触れて、当社が事業オーナーとして参画できる分野を見出す。

医療・ライフサイエンス事業の取り組み - 今後の拡大

2023年4月から第14次三カ年中期経営計画をスタートし、光学事業、医療・ライフサイエンス事業、機能事業、通信事業の4事業の成長による企業価値の向上に努めています。そのうち、医療・ライフサイエンス事業は、「朝日らしさで世界の医療現場と患者のQOL向上に貢献する」をビジョンとし、光学事業に続く収益の第二の柱として成長すべく活動を続けています。

第二福島工場の増築

今後の開発製品の受注見通しを踏まえて、第二福島工場の生産能力を増強させるために、同工場を増築することいたしました。



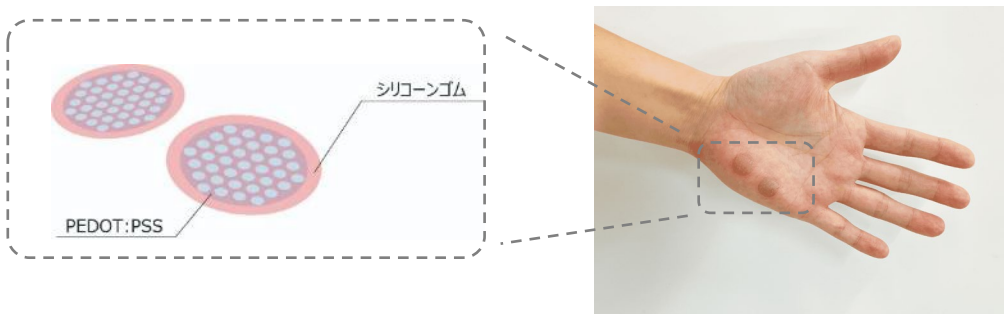
販売子会社の設立

35年にわたる実績を基盤に、医療分野の最前線でメーカー機能とネットワークを活かした提案・サービスを進めていくことが、医療・ライフサイエンス事業の拡大に寄与すると判断し、商社機能を持った新たな販売子会社の設立を決定いたしました。



ナノシート電極

ナノシート電極は生体適合性を持つシリコーンゴムと導電性高分子で構成された極薄の電極です。シートの厚みは1,000nm以下で接着剤を仕様せず水のみで肌へ貼り付けることができます。



当社の伸縮配線を使用することで、課題であった動きの範囲に関係なく測定することができます。

また、極薄のナノシート電極を用いることにより、今まで測定が難しかった表面の凹凸が複雑な手のひらや足の裏にも電極を貼り付けて測定することが可能になりました。

筋電計測 スターターキット

伸縮配線

フィルム状の配線表面にシリコーンゴムを当社独自の分子接着接合技術を用いて被覆させ、立体的に構造変化するよう「切り紙」加工された配線です。ゴムの復元力により低応力で伸縮させることができます。



やわらか保護カバー RFIDタグ

やわらか保護カバーRFIDタグは、単品では屋外での使用が制限されるRFIDタグをやわらか保護カバーで保護することで、工事現場や物流など過酷な屋外での使用を可能にしました。中身のRFIDタグの種類を変えることで、様々な種類のRFIDタグを屋外向け仕様にすることができます。



温度センサなしタイプ

温度センサありタイプ



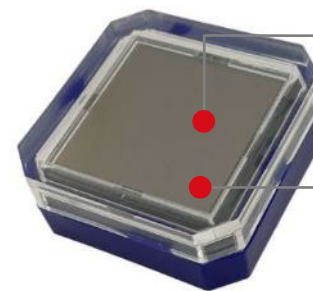
工事現場のネットに
RFIDタグを取り付けている様子

やわらか保護カバー EnOcean

EnOceanは、独EnOcean社が開発したバッテリー不要の無線通信規格です。EnOceanデバイスの正規代理店である丸紅情報システムズ社と共同で、EnOceanを「やわらか保護カバー」で保護し防塵防水機能を追加した製品をラインナップしました。

丸紅情報システムズ社と共同販売

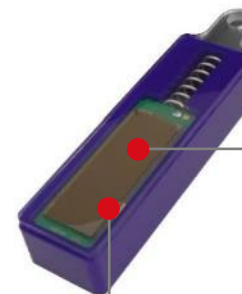
《マルチセンサ》



温度、照度、加速度などを測定
ソーラーで発電した電気でデータ送信

ソーラーでの発電が出来るように
透明のゴムを使用して保護

《温度センサ》



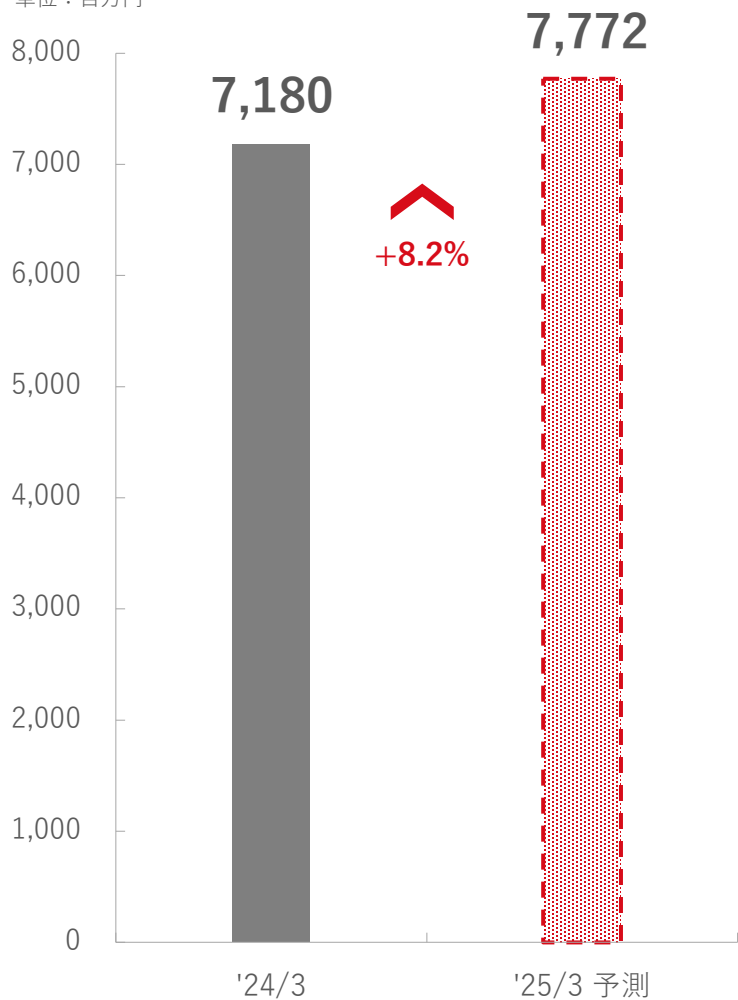
温度を測定
ソーラーで発電した電気でデータ送信

2025年3月期 通期

予測

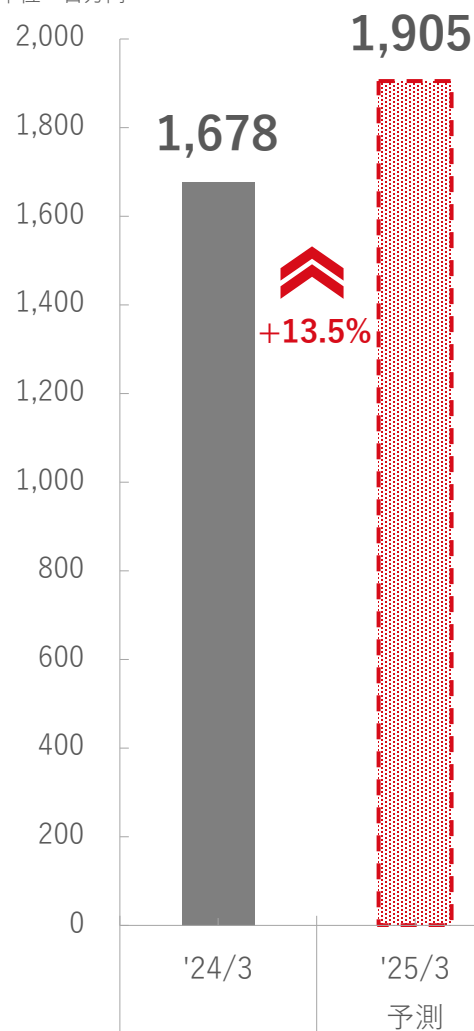
2025年3月期連結決算 通期予測

単位：百万円



売上高

単位：百万円

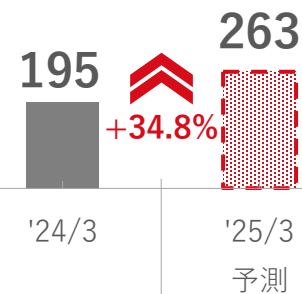


売上総利益

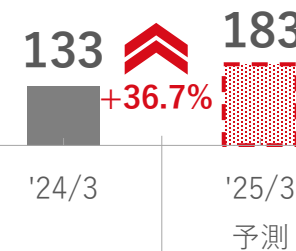
■ 各事業分野とも受注が回復し、売上高は過去最高を計画。
 ■ 売上高の増加に伴い各利益指標も増益の見込み。



営業利益



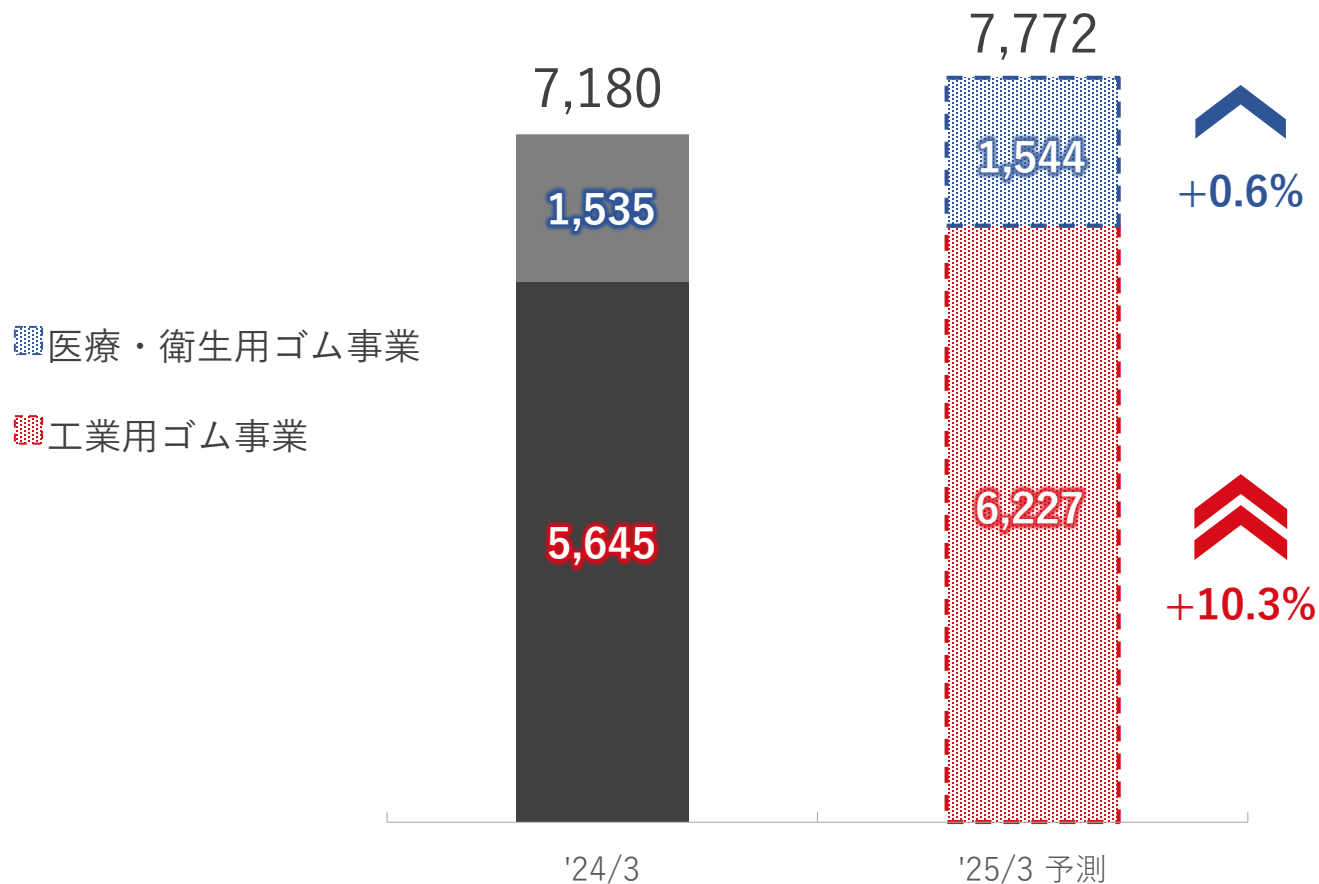
経常利益



当期純利益

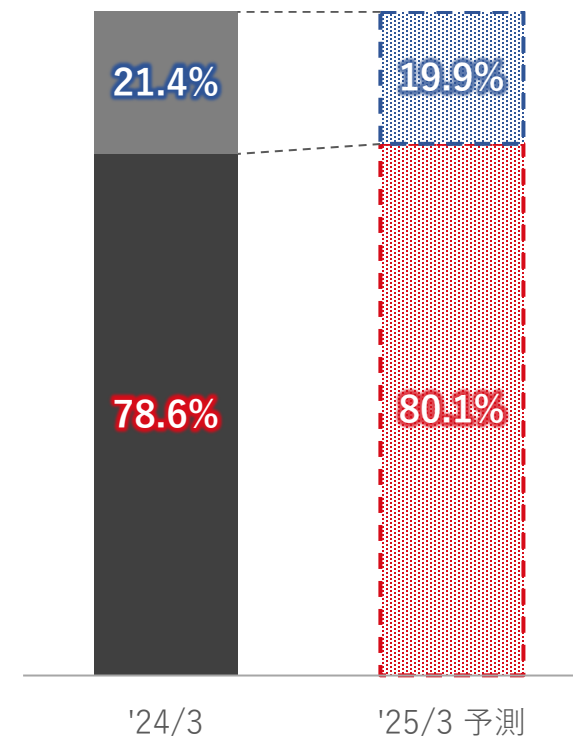
売上高

単位：百万円



構成比

- 医療・衛生用ゴム事業
- 工業用ゴム事業



工業用ゴム事業は、特に自動車向けゴム製品の受注回復を見込んで増収。
医療・衛生用ゴム事業は、引き続き受注は堅調に推移する見込み。

2025年3月期連結決算 通期予測 - 中期事業分野別

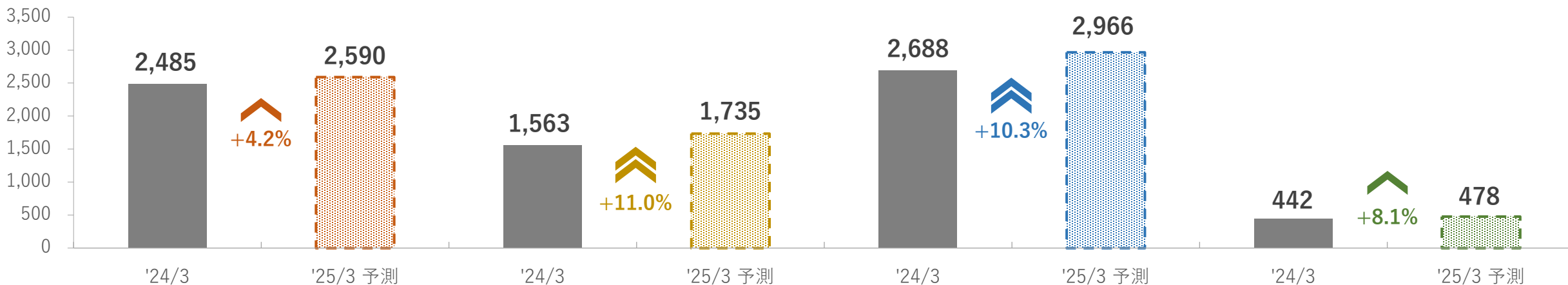
単位：百万円

光学事業

医療・ライフサイエンス事業

機能事業

通信事業



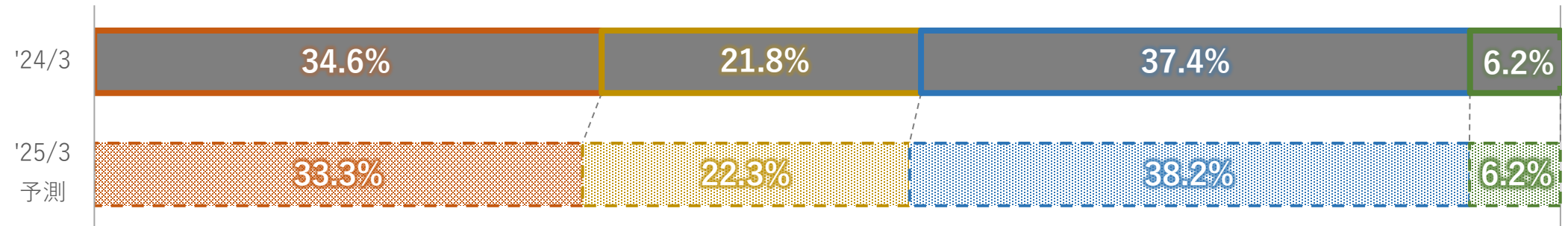
自動車内装照明用のASA COLOR LEDの受注が回復。

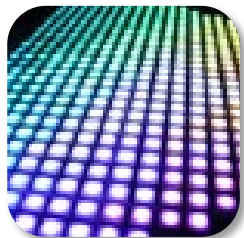
プレフィルドシリンジ用ガスケット、採血用・薬液混注用ゴム栓、ARチェックバルブなど診断・解析向けゴム製品の受注が引き続き堅調に推移し、過去最高更新の見通し。

卓球ラケット用ラバーの受注は引き続き堅調。自動車のスイッチ向けゴム製品の受注も好調。

RFIDタグ用ゴム製品の受注は堅調に推移する見込み。やわらか保護カバーの市場供給を進める。

構成比



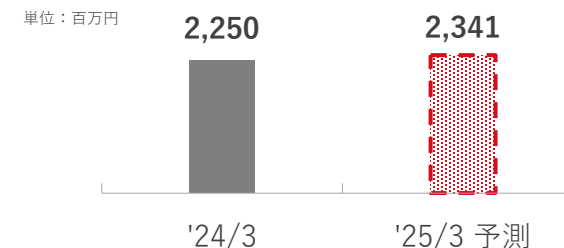


ASA COLOR LED®

工業用ゴム事業

光学事業

- ・顧客の在庫調整が終了し、受注が増加する見通し。
- ・受注に合わせた最適な生産体制を維持しつつ、顧客要求に対応する。

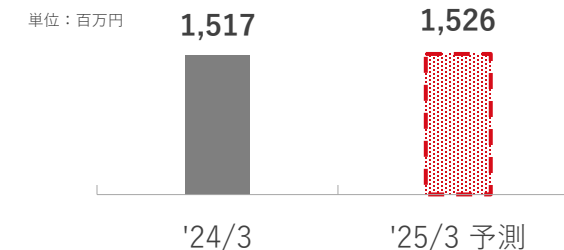


医療用ゴム製品

医療・衛生用ゴム事業

医療・ライフサイエンス事業

- ・診断・治療向け製品の受注は引き続き堅調に推移する見通し。
- ・新規開発製品の取り組みを継続して進める。

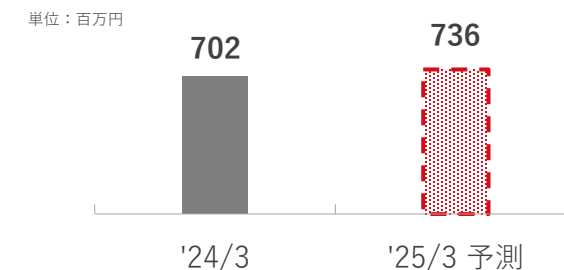


卓球ラケット用ラバー

工業用ゴム事業

機能事業

- ・受注は堅調に拡大する見通し。
- ・さらに生産体制の増強に向けて準備を進める。

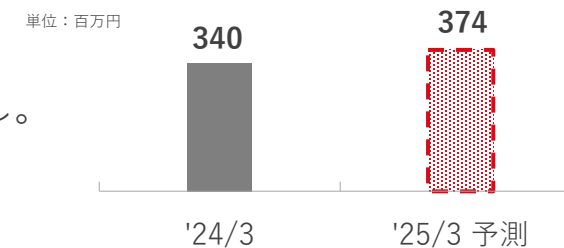


RFIDタグ用ゴム製品

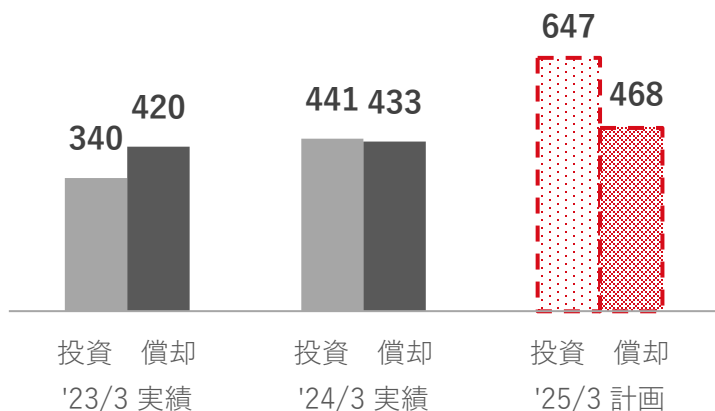
工業用ゴム事業

通信事業

- ・市場環境は回復してはいるものの、引き続き低水準で推移する見通し。
- ・やわらか保護カバーRFIDタグの標準品、カスタム品を販売開始。



設備投資額 **647**百万円
減価償却費 **468**百万円



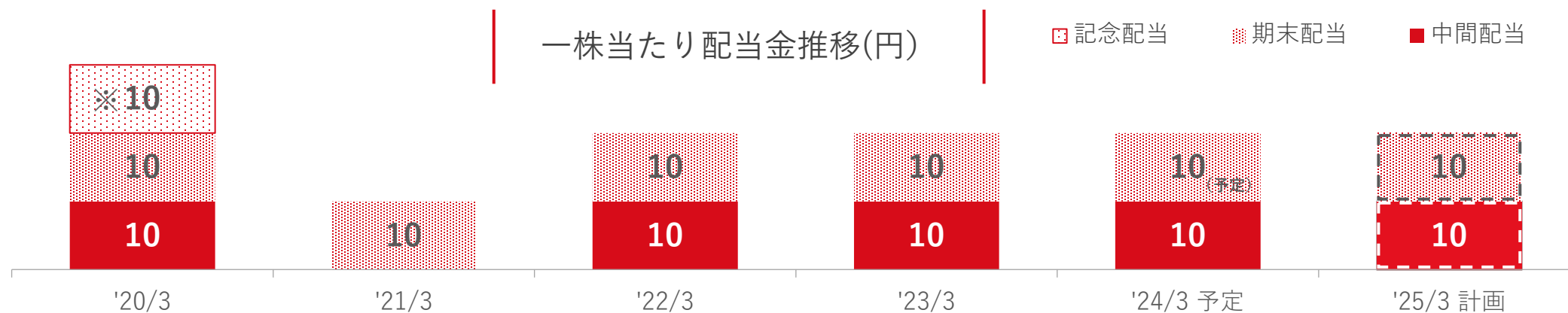
事業分野別

光学事業	6百万円	光学試験機他
医療・ライフサイエンス事業	29百万円	回路製品の生産設備他
機能事業	344百万円	開発製品の生産設備他
通信事業	20百万円	タグ関係生産設備
事業共通	248百万円	太陽光発電設備など

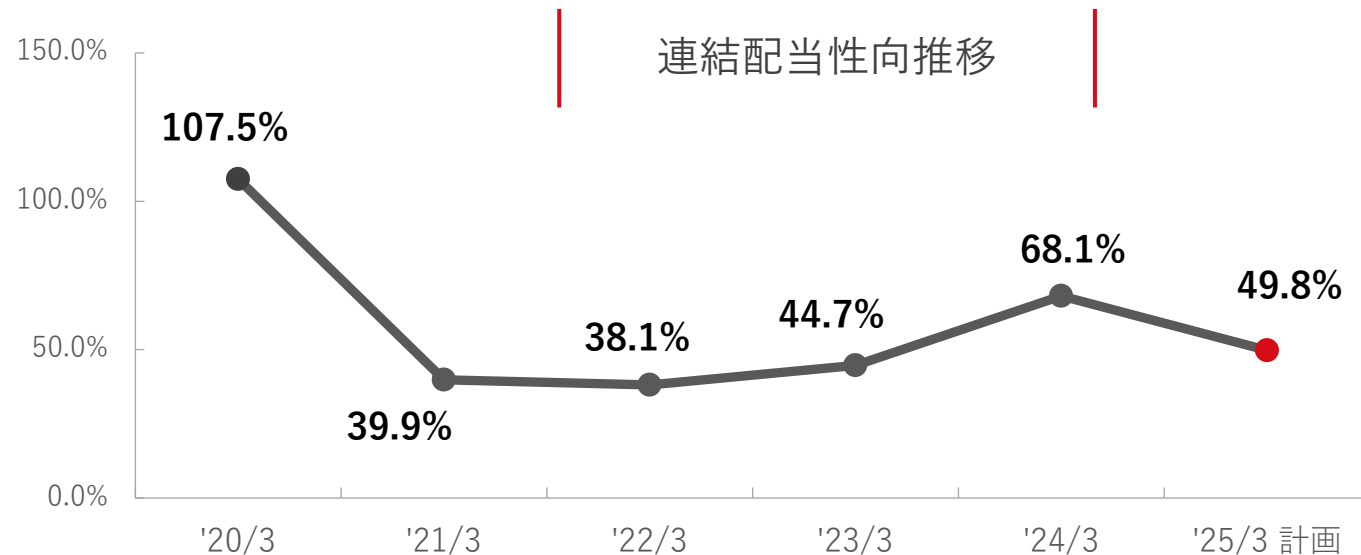
法人別

朝日ラバー	595百万円	全事業
東莞朝日精密橡膠制品	52百万円	機能事業、その他

機能事業の開発製品である自動車用、民生用のスイッチ製品、卓球ラケット用ラバーの生産投資を実施予定。



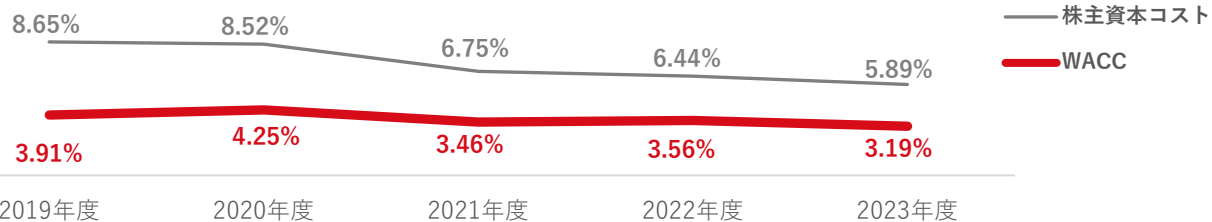
※2020年3月期は期末配当に普通配当10円と記念配当10円を実施



中間配当金、期末配当金とも
一株当たり10円を計画。

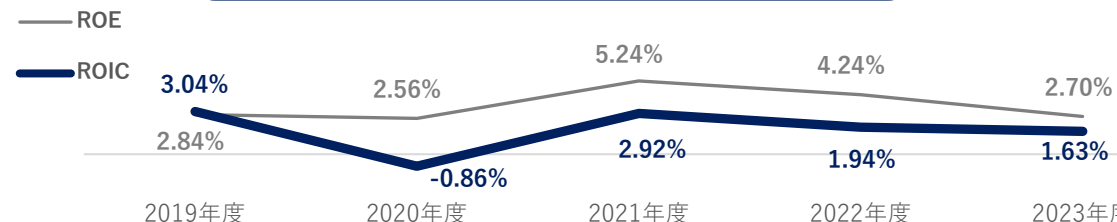
資本コストと株価を意識した経営の
実現に向けた対策

資本コスト



WACC：加重平均資本コスト (Weighted Average Cost of Capital)

資本収益性



ROE：自己資本当期純利益 (Return On Equity)、ROIC：投下資本利益率 (Return On Invested Capital)

2023年度 株主資本コスト

株主資本コストとは株式での資金調達に必要なコスト。株主が期待するリターンを表す。

$$\begin{aligned}
 \text{株主資本コスト} &= \text{リスクフリーレート} + \beta \times \text{市場リスクプレミアム} \\
 5.89\% &= 10\text{年国債利回り } 0.725\% + 0.86 \times \text{東証プライム全銘柄株式利回り } 6\%
 \end{aligned}$$

※CAPM：資本資産評価モデル (Capital Asset Pricing Model) ベースで算出

※市場リスクプレミアムは上記指標を参考に保守的に算出

資本収益性とは

調達した資本に対してどれだけのリターンを創出できているかをはかる指標である。資本収益性が資本コストを上回ることが望ましい。

$$\begin{aligned}
 \text{ROE} &= \frac{\text{当期純利益}}{\text{自己資本}} \\
 \text{ROIC} &= \frac{\text{営業利益} \times (1 - \text{税率})}{\text{有利子負債} + \text{自己資本}}
 \end{aligned}$$

株主資本コスト
WACC (加重平均資本コスト)

資本コストの定義

リターンに対する指標のため算出時期による指標のバラツキを無くすことから、株主資本コストは**7%に固定**しWACC (加重平均資本コスト) を算出



当社の資本コストは**WACCとし4%固定**とする

※環境変化を考慮して再設定を検討

資本収益性について

指標の考え方

当社の企業価値の成長は、事業そのものの成長で利益を稼ぐことを主軸と考えており、そのゴールと進捗状況を正しく測る指標を資本収益性の指標とする。

第14次三ヵ年中期経営計画では「**連結営業利益率5%**」を定量目標として掲げている

資本収益性は**ROIC**を指標として用いる

WACCとROICの比較

資本コストの指標であるWACCと、投下した資本に対しどれだけ収益をあげているかの指標であるROICを比較。ROICがWACCを下回っており市場が期待しているリターンを創出できていない状態が継続している。

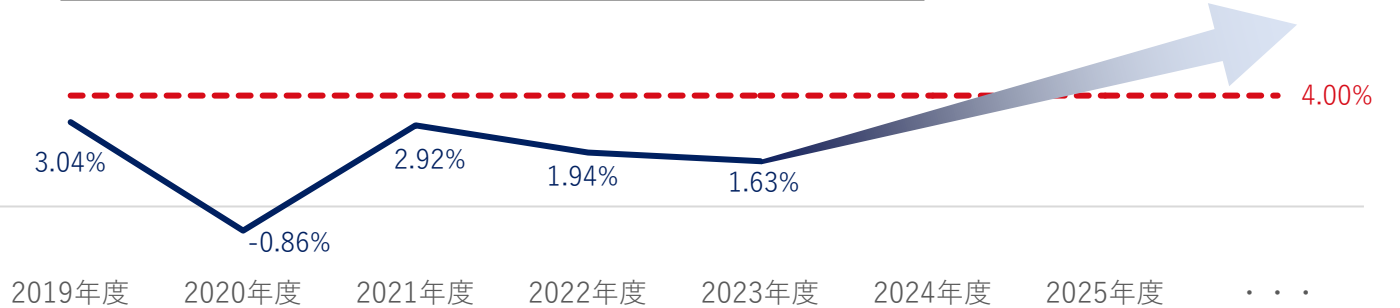
エンタープライズスプレッド

「WACC」と「ROIC」の差

⇒負債と自己資本で調達したコストと営業利益率を比較する指標

--- WACC
(Weighted Average Cost of Capital)

— ROIC
(Return On Invested Capital)

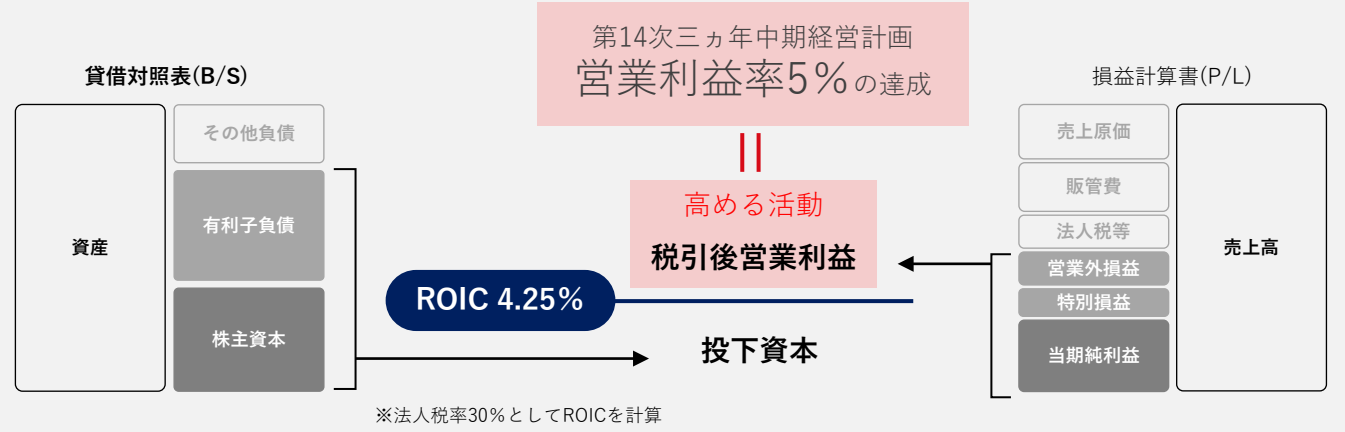


WACC < ROICを達成

第14次三ヵ年中期経営計画の定量目標である「営業利益率5%」を達成した場合、ROICは4.25%と想定される。

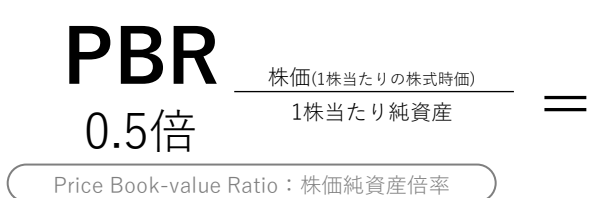
【参考】営業利益率5%達成時のROIC計算
 税引後営業利益 = (計画売上高85億円 × 営業利益率5%) × (1-0.3) = 2.975億円
 投下資本 = 有利子負債20億円 + 自己資本50億円 = 70億円 (仮定)
 2025年度の予想ROIC ⇒ 税引後営業利益 / 投下資本 = 2.975億円 / 70億円 = **4.25%**

さらに各事業に対する資本収益性を算出を行うことで現状を把握し、各事業の特色に合った事業拡大を目指す。

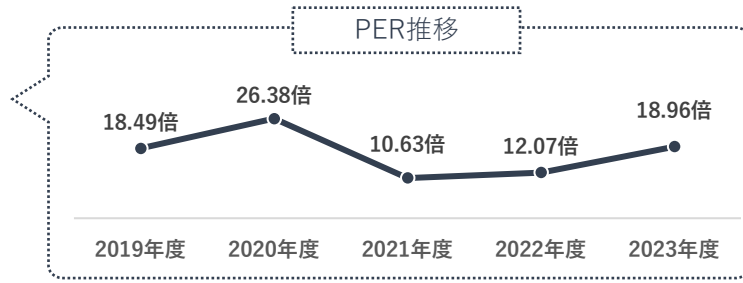


WACC < ROICの状態を維持

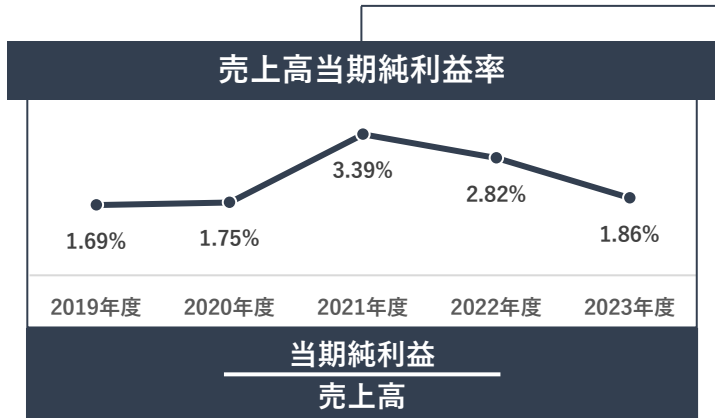
今後成長が見込まれる事業に対しての投資は継続を拡大するとともに、経営資源を効率的に配分することにより収益性の改善に取り組む。



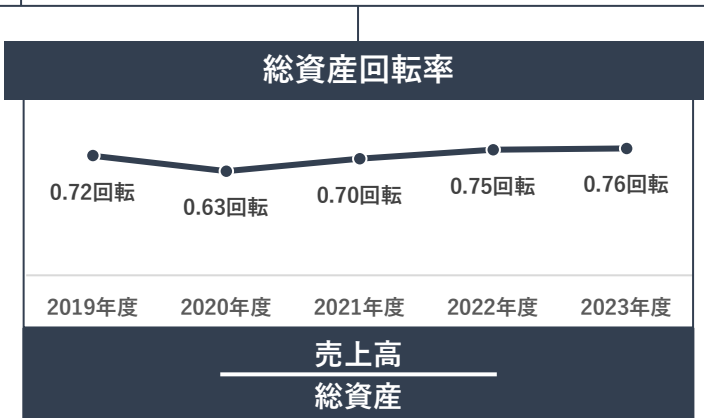
×



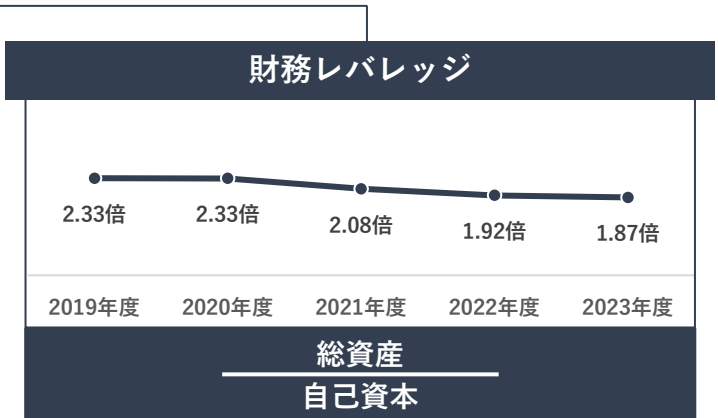
分解



×



×



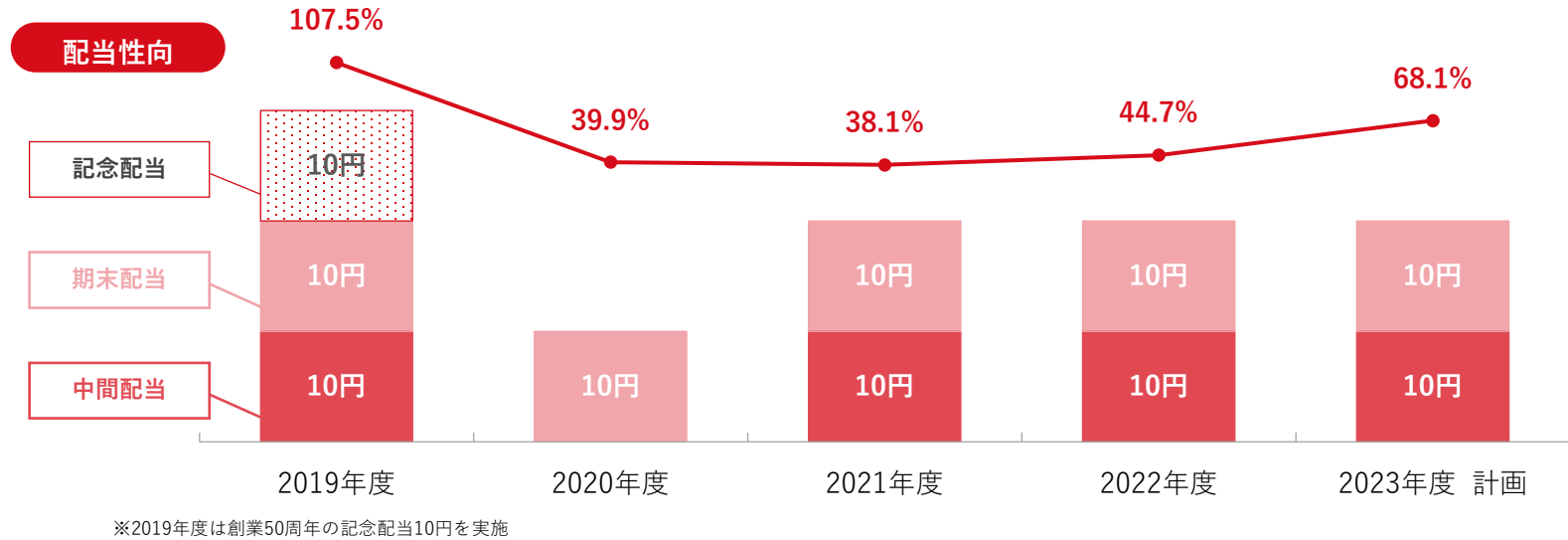
売上高当期純利益率にフォーカス

第14次三ヵ年中期経営計画では営業利益率を5%に高めるという目標を掲げ、4事業で新商品を開発し市場供給を進めるとともに既存製品の生産性向上に取り組んでいる。営業利益率を高めることによりROEの構成要素である当期純利益の向上にもつながることから、今まで継続してきた活動に加え新たな取り組みにより営業利益率を達成することでPBR向上を目指す。

総資産回転率は継続して設備投資を行いつつ投資効率を高める活動を進める。財務レバレッジは投資計画と金利状況を踏まえて資金調達を機動的に実施していく。

企業価値の向上

4事業をさらに成長させることにより利益率を高め、EPS（一株当たり利益）などの指標を向上させていくことで企業価値を高め株価へ反映させることが基本である。資本コストを意識しつつ収益性をより高めることが企業価値向上につながると考える。



対策 1

配当の考え方

安定配当を基本とした業績連動としていく。成長分野への投資と株主還元のバランスを取りつつ、株主や投資家から魅力的だと判断していただける水準を踏まえて実施する。配当性向などの指標は判断の参考値として捉えつつ、安定的な配当を目指す。

対策 2

IRによる情報提供

顧客との契約を遵守しつつ、できる限り新製品・開発製品の発表と各事業の進捗状況の開示を行っていく。
また、個人投資家も意識した情報発信としてホームページのリニューアルを実施し、よりわかりやすい情報開示を目指す。

お断り

当資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略などに関する情報は、当資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で行った判断に基づくものです。

しかしながら実際には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生などにより、当資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。

当社は、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めてまいりますが、当資料記載の業績見通しのみに全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送などを行われぬようお願いいたします。

当資料についてのお問い合わせ先

株式会社朝日ラバー 管理本部経営企画部

TEL 048-650-6056